



地安寺 宇治黄檗山の末寺
後水尾法王の御影堂、御位牌所建立の宝永年間(1704-10)林丘寺光子(京都林丘寺宮)が鐘樓門脇一帯に茶を栽培、その後地安寺が管理京都音羽御所と林丘寺宮に献納。茶の栽培は昭和初期まで続いた。今は記念の一樹のみ残る。

大日川の掘割の跡
頓宮回りから流れる川はしばしば水害を起こした。被害の大きかった大野村が市場村との境に堤防を築いた。今度は市場村が被害を受けたので元禄12年(1699)領主堀田筑前守に願い出て、頓宮村境より延長504間の排水路の掘割を築き4年後に完成させた。



倭姫の巡行地の一つ“甲可日雲宮”が土山町内にあったとされこの時の殿舎がこの辺りに設けられたことが地名の由来。後に垂水頓宮の関連施設も造営されたとの伝え。(案内板)

巖谷一六・巖谷小波

一六は水口藩医である巖谷玄通の子。天保5年(1834)生京都で医学を学び父の跡を継ぐが能史としての頭角を現し、明治元年新政府に登用される。めいかく書家としても有名で明治三筆の一人。(日下部鳴鶴、中林悟竹)
小波は一六の三男。文学を志し、児童文学者となる。さるかに合戦、浦島太郎ほか。児童文学の創始者。



山口志兵衛重成清泉碑 (村上産業の敷地内)
この辺り水が乏しく旅人が困っているのを聞いて正保4年(1647)山口重成が井戸を掘った跡。その顕彰碑、稲川縁に建つ。重成は伊井直孝に付いて大阪夏の陣に参加した人物。この清水伝説では“義朝の首すすぎし水也”とか、土俗では、“景清が手水みず共いふ、参宮の人、けがれなりとてのまず”とのいわれが残る。



水口岡山城址
大岡山281m
この辺り脇本陣があったが見当たらず



水口岡山城址 標高281m
天正13年(1585)秀吉の家臣中村一氏が大岡山に築城。駿河に転封後増田長盛、文禄4年(1595)名東正家が城主。関ヶ原合戦で落城。正家自害。以後幕府直轄地。寛永11年(1634)の水口城造営で石材が転用されたという。今は頂上には祠、中腹から頂上にかけて堀切、曲輪、僅かな石垣が残る。



水口岡山城跡



水口東見付



反野畷



頓宮御殿跡碑